



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
《2017年度(H29)活動実績・2018年度(H30)活動計画》



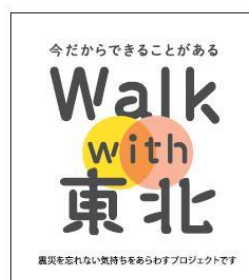
かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)

【 2018年度(H30)活動報告 】

《2017年度(H29)活動実績・2018年度(H30)活動計画》

2018年4月1日

(更新：2018年5月28日 v7.1)





I. 目次

I. 当団体について.....	5
1. 設立趣旨書.....	6
(1) 趣旨.....	6
(2) 活動.....	6
(3) 経緯.....	6
2. 活動基本.....	7
(1) 現地活動.....	7
(2) 県内活動.....	7
(3) 情報発信.....	7
(4) 災害復旧支援.....	7
3. 活動方針.....	8
(1) 長期的方針.....	8
(2) 当団体は、黙々と活動を行う.....	8
(3) 福島の活動においては、ご家族の理解も得て行う.....	8
(4) また、スタッフ、参加者ともに無理はしない.....	8
(5) 活動のすべて.....	8
4. 活動実績.....	9
(1) 現地活動.....	9
(2) 県内活動.....	10
(3) 視察研修.....	10
(4) 講演会・勉強会（情報発信）.....	11
(5) （参考）.....	14
(6) ご寄付.....	14
5. 組織概要.....	16
6. 会員制度.....	16
7. 団体登録先・情報登録先.....	16



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
《2017年度(H29)活動実績・2018年度(H30)活動計画》

8. 当団体運営	17
(1) 定例会・管理事項等	17
(2) 安全対策など	17
(3) 教育関係（自主受講済み事項、ボランティアの一部スキル）（役員）	17
(4) 保有備品（個人保有を除く）	17
II. 2017年度活動実績（平成29年度）	18
1. 福島の課題	18
2. 活動方針	18
3. 活動目的	18
(1) 現地活動	18
(2) 県内支援	18
(3) 情報発信	18
(4) 災害復旧支援	18
(5) 維持管理	18
4. 全体事業実績（概要）	19
5. 事業詳細	22
(1) 事業1：現地活動（【バス便】ボランティアバス）	22
(2) 事業2：現地活動（【広域便】ボランティアバス以外の自家用車等による広域活動）	23
(3) 事業3：県内活動（他団体との連携による避難者支援）	24
(4) 事業4：県内活動（広域避難者支援に関わる交流会や会議等への出席）	25
(5) 事業5：情報発信（視察研修）	26
(6) 事業6：情報発信（講演会等）	27
(7) 事業7：情報発信（イベント出展等を通じた情報発信）	28
(8) 事業8：情報発信（ホームページを通じた情報発信）	29
(9) 事業9：災害復旧支援（国内での災害発生時の緊急対応）	29
(10) 事業10：維持管理（現地訪問、打ち合わせ等）	30
(11) 事業合計	31
6. 2017年度の役員・スタッフ	35



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
《2017年度(H29)活動実績・2018年度(H30)活動計画》

(1) 役員・スタッフ	35
(2) 事業担当	35
(3) 2018年度3月31日会員状況	35
7. 平成29年度(2017年度)総括	36
(1) 現地活動	36
(2) 県内支援	36
(3) 情報発信	36
(4) 災害支援	36
III. 2018年度活動計画(平成30年度)	37
1. 福島の課題	37
2. 活動方針	37
3. 活動目的	37
(1) 現地活動	37
(2) 連携活動	37
(3) 視察研修	37
(4) 情報発信	38
(5) 災害復旧支援	38
(6) 維持管理	38
4. 全体事業計画(概要)	39
5. 事業詳細	41
(1) 事業1: 現地活動	41
(2) 事業2: 連携活動	42
(3) 事業3: 視察研修	43
(4) 事業4: 情報発信(講演会等)	44
(5) 事業5: 災害復旧支援	45
(6) 維持管理	46
(7) 事業合計	47
6. 2018年度の役員・スタッフ	50



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
《2017年度(H29)活動実績・2018年度(H30)活動計画》

(1) 役員・スタッフ	50
(2) 事業担当	50
(3) 2018年度4月会員状況(2018.5.1.時点)	50
7. 最後に	51
IV. 補足資料.....	52
1. 活動の様子	52
2. 活動日程(計画、一部抜粋、状況により変更もあります。)	53



I. 当団体について

当団体は、ボランティアとして2011年5月より岩手県に3分の1、宮城県に3分の1、そして福島には個人で3分の1として福島応援の活動を進め、2011年10月より福島応援隊として有志の応援をいただき活動をさらに一步前に進め、2012年1月11日に“kfop”を設立しました。

活動に当たっては、設立前の約半年間、福島にボランティアバスを出すべく、事前準備を進めましたが、福島へバスをなかなか出していただけられない現実、ボランティアバスを出すことへの理解がなかなか得られない現実、活動に理解がなかなか得られない現実がありました。そんな環境の中、バスは横浜の『シティアkses株式会社』様に出していただきました。活動先はスタッフを含め現地に赴き、受け入れ調整をさせていただきました。

設立当初の2012年度の主な活動としては

①現地活動

- ・福島市の福島市社会福祉協議会募集のボランティア（渡利地区、大波地区）。
- ・福島市の任意団体の復興応援活動（借上住宅・近隣にお住まいの皆様、応急仮設住宅に）。
- ・南相馬市の鹿島区社会福祉協議会募集による小高区での屋外活動（山側、海側、街中）。
- ・南会津での大熊町の子どもたちを対象とするイベント支援活動。
- ・最終の福島12便は、福島復興プロジェクトチーム「花に願いを」で活動。

②県内活動（神奈川県内での活動）

- ・神奈川県内に避難を余儀なくされている皆様へのお手伝い、避難されている方々の気持ちは私たちには十分には分からないかも知れませんが、少しでも近づければ、との気持ちで。
- ・かながわ東日本大震災県内避難者支援ネットワークに協力し、弁護士よろず相談会。
- ・同、町別（浪江町、双葉町、富岡町、楡葉町、大熊町）交流会。
- ・同、また共催し「ふるさとコミュニティ in かながわ」の県内全体の交流会。
など、活動および協力ができました。

③当団体の応援者は

2012年1月末時点で48名、2013年3月末に置いては167名（内会員は119名）と多くの方に応援をいただくことができました。2018年3月末の登録メンバーは317名。

2012年度から、現在までの活動履歴は当団体HPに掲載しています。

2018年度も継続し、福島の応援を続けていく。

ご参加いただきました皆様、応援をいただきました皆様、寄付をいただきました皆様、支援金をいただきました皆様、そして私たちを受け入れてくださいました現地の皆様、交流会にお越しいただきました避難されている皆様（県外からもお越しいただきました）、同じく交流会にご協力をいただきました行政の皆様感謝いたします。

かながわ「福島応援」プロジェクト
代表 渡辺孝彦



1. 設立趣旨書

(1) 趣旨

2011年3月11日に地震と津波による被害を受けた東京電力第一原子力発電所は、全電源を喪失して原子炉の冷却ができなくなり、大量の放射性物質放出を伴う重大な原子力事故に発展した。これにより浜通り地域を中心に、周辺地帯の住民は長期の避難と、福島県の住民へのいわれなき差別、いじめ、風評被害、観光の打撃と、今も大きな苦難を強いられています。

かながわの「かながわ東日本大震災ボランティアステーション」では岩手県・宮城県に向けて活発な支援が続けられていますが、福島県への支援は今なお実現していません。

また、福島県は今もなお復旧に至らず、復興ままならない状況下にあります。

その中で、福島県に住んでいる方々、福島県から避難される方それぞれの方へ応援をしていきたい。神奈川県から「福島を応援する」その主旨で、かながわ「福島応援」プロジェクトを設立するものです。

(2) 活動

①直接活動（家屋内外の片付け、街中掃除、仮設訪問、子どもたち支援等をしていきたい）

②県内支援（神奈川県内、関東圏に避難されている方へのお手伝い）※1

③情報発信（福島県での活動、観光情報、温泉情報、特産物情報、など発信したい）

④災害復旧支援（地域を特定せず、台風や豪雨等の自然災害による甚大被害が発生したとき、現地の要請に基づきその復旧支援等を行う。）※2

を行い、今までと同じように笑顔があふれ、子どもたちも楽しく・のびのびと遊んでいる福島県であることを願い活動を展開し、また、神奈川県から応援の輪を広げるために、多くの方の参加者を募り活動していきたい。

※1：②の県内支援活動は設立当初はなく、私たちは現地福島に直接行きお手伝いする、神奈川県内に避難されている方のことは神奈川県に住む方で応援してほしい。その思いでありましたが、県内での応援もまだまだ十分ではなく、必要、と感じ活動を追加したものです。

※2：④の災害復旧支援は平成27年台風第18号を受け2016年度に明確化した。

(3) 経緯

①2011.10.11 ボラステ※3のボランティア活動と平行して活動を開始（発起）

②2011.10.29 ボラステのボラバスチームメンバー参加により福島市ボランティア参加

③2011.12.28 スタッフ含めた参加者の募集、本格設立へ行動（36人が賛同）

④2012.01.09 初会合（賛同出席者16名）

⑤2012.01.11 設立日とする。

※3：ボラステとは「かながわ東日本大震災ボランティアステーション」のこと。

2011.10.11

かながわ「福島応援」プロジェクト
設立代表 渡辺 孝彦



2. 活動基本

かながわから福島を応援します。

非営利の任意ボランティア団体として、現地活動（福島県内での活動）、県内活動（神奈川県内を含む関東圏での活動）、情報発信（広く一般の方に）の3つを活動の基本、柱として、できることを少しずつでも進めます。

(1) 現地活動

福島県から避難される方、避難されている方、福島県に住む方へできることのお手伝いを現地で直接行う。他団体へ参加、連携を含めて福島復興、元気につながる活動を行う。

- ①県民が生活される場の街中掃除等ボランティア活動
- ②仮設住宅に住まわれている方へのボランティア活動など

(2) 県内活動

神奈川県および近郊に避難されている方の交流会、お手伝い。および被災地自治体、団体・神奈川県内の自治体、団体とのつなぎ手として支える活動を行う。

(3) 情報発信

福島県でのボランティア活動、観光情報、温泉情報、特産品情報など「現地活動」「視察研修」「講演会」「美味しいふくしま伝え隊」などを通して福島の元気に、笑顔につながる情報を発信する。

(4) 災害復旧支援

地域を固定せず、台風や豪雨等の自然災害による甚大被害が発生した際には、現地の要請に基づきその復旧支援等を行う。

そして、今までと同じように笑顔があふれ、子どもたちも楽しく・のびのびと遊んでいる福島であることを願います。

さらに、神奈川からつながりの輪が大きくなり、多くの方に福島を訪れていただけることを願います。

3. 活動方針

(1) 長期的方針

私たちは、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故によりいまだ大きな苦難の中にある福島を長期にわたって応援し続けるために、持続可能な事業計画と予算計画を立てて団体としての活動を維持します。

いずれの活動についても、当事者の方々が必要とする支援や環境は時間とともに変化します。特に相双地域では避難区域の解除が進み、様々な課題が発生してくると見られます。そうした変化を理解し、柔軟に対応できる体制、予算的な余裕、他団体とのつながりも必要です。

その一貫として、現地の状況を把握するための情報収集、現地の行政や民間団体とのつながりの維持を目的とした現地訪問や会議への参加も積極的に行います。

同時に、神奈川をベースとしながら長期的に現地に関わっていける連携先も模索していきます。

(2) 当団体は、黙々と活動を行う

何が無くても福島に行く、その心づもりが基本となります。

- ・ 福島の復旧・復興を願う。
- ・ 福島の観光・温泉・果物・農産物などの応援をする。
- ・ 福島の子どもたち、避難を余儀なくされている皆様に少しでも応援になることをする（重きを置くこと）。

(3) 福島の活動においては、ご家族の理解も得て行う

(4) また、スタッフ、参加者ともに無理はしない

- ・ できることを
- ・ できるときに
- ・ できる範囲で

(5) 活動のすべて

- ・ kfop 日程表、プロフィール、活動内容、設立趣旨、本会規約、事業計画、活動履歴、会員募集、ご寄付、会計（事業会計・会計報告）
- ・ ボランティア募集情報
- ・ 活動様子

など、長く福島の応援を続けることができるために、すべての情報を、当団体の HP で公開しています。



4. 活動実績

(1) 現地活動

年度	活動先	実施回数	参加者数
2011年度	福島市大波地区ボランティア	6回	29名
2012年度	福島市渡利地区ボランティアバス	3回	57名
	福島市復興応援ボランティアバス	6回	155名
	南相馬市小高区ボランティアバス	2回	67名
	会津若松市(大熊町)ボランティア	1回	6名
	福島市「花に願いを」ボランティアバス	1回	22名
2013年度	福島市渡利「花見山公園」花見バス	1回	23名
	福島市「花に願いを」ボランティアバス	10回	130名
	静岡県西伊豆町水害ボランティアバス	2回	21名
	南相馬市小高区ボランティアバス	6回	99名
2014年度	福島市渡利「花見山公園」花見バス	1回	17名
	福島市「花に願いを」ボランティアバス	2回	4名
	南相馬市小高区ボランティアバス	10回	159名
	福島県内応急仮設住宅等訪問	4回	5名
2015年度	視察研修便(富岡町、大熊町)	2回	37名
	南相馬市小高区ボランティアバス	10回	160名
	川内村訪問・支援活動	1回	6名
	現地自治体等訪問(現地訪問)除く講演依頼等	1回	2名
	双葉郡未来会議	1回	2名
2016年度	南相馬市小高区ボランティアバス	8回	129名
	視察研修便(双葉町、浪江町)	2回	41名
	その他現地活動(含む有志野馬追)※事業外	4回	13名
	災害復旧支援(発生時)	0回	0名
	現地自治体等訪問(維持管理)除く講演依頼等	1回	2名
合計		85回	1,187名
2017年度	南相馬市小高区ボランティアバス(バス便)	5回	82名
	南相馬市小高区ボランティア(広域便)	9回	63名
	視察研修便(川内村・葛尾村)	1回	17名
	現地自治体等訪問(維持管理)	3回	6名
	その他現地活動(相双ボラ、野馬追等)※事業外	2回	8名
	災害復旧支援(発生時)	0回	0名
全体合計(概数)		105回	1,363名



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2017年度(H29)活動実績・2018年度(H30)活動計画≫

(2) 県内活動

年度	活動先	実施回数	参加者数
2012年度	第1回「ふるさとコミュニティ in かながわ」	1回	協力
	第2回「ふるさとコミュニティ in かながわ」	1回	共催
	町別交流懇談会・”しゃべりば”・弁護士相談会	22回	協力
2013年度	第3回「ふるさとコミュニティ in かながわ」	1回	共催
	第4回「ふるさとコミュニティ in かながわ」	1回	共催
	町別交流懇談会・お茶っこ会	12回	協力
2014年度	第5回「ふるさとコミュニティ in かながわ」	1回	共催
	第6回「ふるさとコミュニティ in かながわ」	1回	共催
	町別交流懇談会・お茶っこ会等	20回	協力
2015年度	特定非営利法人かながわ避難者と共にあゆむ会	各回	各人
2016年度	特定非営利法人かながわ避難者と共にあゆむ会	各回	各人
2017年度	特定非営利法人かながわ避難者と共にあゆむ会	各回	各人

(3) 視察研修

年度	実施日	視察先	参加者	協力
2015年度	2015. 4.11-12 (1号)	富岡町	20人	富岡町 株式会社 報徳観光 白鳥温泉 春木屋旅館 特定非営利活動法人ザ・ピープル
	2015. 10.24-25 (2号)	大熊町	17人	大熊町、大川原復興拠点 特定非営利活動法人 大熊町ふるさと応援隊 好間工業団地第三応急仮設住宅自治会 Jヴィレッジ、福島給食センター 株式会社 報徳観光 白鳥温泉 春木屋旅館
2016年度	2016. 5.28-29 (3号)	双葉町	20人	双葉町 いわき・まごころ双葉会 田人おふくろの宿 シティアクセス株式会社
	2016. 10.22-23 (4号)	浪江町	21人	浪江町 社会福祉法人 浪江町社会福祉協議会 大堀相馬焼協同組合 陶芸の杜 おおぼり 二本 松工房 ヘルシーパルあだたら シティアクセス株式会社



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2017年度(H29)活動実績・2018年度(H30)活動計画≫

2017年度	2017. 10. 28 (5号)	葛尾村	17人	一般社団法人 葛力創造舎 代表理事 下枝浩徳様 葛尾村 社会福祉法人 葛尾村社会福祉協議会 松本邦久様 (実証田圃場) 川島博幸様 (地元の方、葛尾村社協職員) カフェ嵐が丘 堀江安則様、みどり様 みどりの里 せせらぎ荘
	2017. 10. 29 (5号)	川内村	17人	川内村商工会 会長 井出茂 様 川内村 井出寿一 様 (元・川内村復興課長、現・福島発電株式会社 浜通り事務所 所長) 秋元洋子 様 (元・川内へ迎える会 会長、現・川内村婦人会 会長) かわうちワイン株式会社 社長 高木亨 様 いわなの郷 (コテージ、レストラン幻魚亭) Café Amazon (コドモエナジー株式会社 川内第一工場長 川口司朗 様)

(4) 講演会・勉強会 (情報発信)

年度	実施日	講演内容
2015年度	2016. 1. 9 第1回 (講演会)	タイトル：南相馬の今 わたしたちにできること
		講師：小高区役所長 村田博 氏 / 課長補佐 根本剛実 氏 南相馬市災害復旧復興ボランティアセンター長 鈴木敦子 氏
		進行：NPO 法人日本ファシリテーション協会 災害復興支援室 杉村郁雄 氏
		場所：かながわ県民センター2階ホール
		協力：南相馬市 社会福祉法人南相馬市社会福祉協議会、 神奈川県立かながわ県民活動サポートセンター 社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会 特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会 (FAJ)
広報協力：特定非営利活動法人かながわ避難者と共にあゆむ会 NPO 法人かながわ311 ネットワーク かながわ災害ボランティアバスチーム チームかながわ SUN		
		参加者数：第一部 114人、第二部 60人



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2017年度(H29)活動実績・2018年度(H30)活動計画≫

2016年度	2016. 6. 25 第2回 (講演会)	<p>タイトル：避難指示解除後の檜葉町から語り部をお迎えして</p> <p>講師：高原カネ子さん (一般社団法人ならはみらい所属 ならはふるさと案内人)</p> <p>進行：東 尚子</p> <p>会場：鶴見公会堂 第1・第2会議室</p> <p>後援：檜葉町</p> <p>協力：一般社団法人ならはみらい 特定非営利活動法人かながわ避難者と共にあゆむ会</p> <p>講演会参加者数：33人 懇親会参加者数：16人</p>
	2017. 1. 14 第3回 (講演会)	<p>タイトル：福島の今を伝える講演会「地域ではぐくむ創造の芽吹き」</p> <p>講師：廣田拓也さん(二本松市、株式会社GNS 常務取締役) 和田智行さん(南相馬市、小高ワーカーズベース代表) 下枝浩徳さん(葛尾村、葛力創造舎代表、双葉郡未来会議)</p> <p>ファシリテーター：鈴木まり子様 (特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会 (FAJ))</p> <p>会場：かながわ県民センター2F ホール 懇親会 (PRONTO プロント 横浜京急 EX イン店)</p> <p>共催：特定非営利活動法人かながわ避難者と共にあゆむ会 認定NPO法人かながわ311ネットワーク かながわ災害ボランティアバスチーム</p> <p>協賛：azbil みつばち倶楽部 シティアkses株式会社</p> <p>協力：かながわ県民活動サポートセンター (=神奈川県) かながわ東北ふるさと・つなぐ会 特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会 (FAJ) 公益社団法人日本青年会議所関東地区神奈川ブロック協議会 一般社団法人葛力創造舎 株式会社小高ワーカーズベース 株式会社GNS 特定非営利活動法人リーフ (Leaf)</p> <p>後援：福島県、二本松市、南相馬市、葛尾村、社会福祉法人 神奈川 川県社会福祉協議会、一般財団法人 神奈川県建築安全協会</p> <p>講演会参加者数：94人 懇親会参加者数：42人</p>



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2017年度(H29)活動実績・2018年度(H30)活動計画≫

(5) (参考)

美味しいふくしま伝え隊 (有志活動)

本活動の費用など、当団体の運営費は一切使用していません。個人・有志活動です。

年度	実施日	会場	来場者	協力
2015年度	2015. 8. 3 17:00-22:00	復興バー銀座店	100人超	有志メンバー
2016年度	2016. 11. 9 17:00-22:00	復興バー@銀座 TRUNK HOTEL	100人超	有志メンバー
2017年度	2017. 7. 8 15:00-21:30	全国うまいもの交流サロン なみへい	100人超	有志メンバー

(6) ご寄付

寄付専用口座を持ち、HP掲載にて広く一般からの寄付(寄付・支援金・助成金)を受け入れる。
 ご寄付・支援金・助成金は、すべてHPに掲載し、その用途もすべて会計のHPに掲載する。

《ご寄付・支援金等実績》

年度	項目	金額	ご寄付・支援元
2012年度	寄付	403,822円	一般の方からの寄付 (お名前はHP掲載)
	助成金(寄付)	300,000円	一般財団法人 神奈川県建築安全協会 様
2013年度	寄付	472,571円	一般の方からの寄付 (お名前はHP掲載)
	支援金(寄付)	300,000円	リコー社会貢献クラブ・FreeWill 様
	助成金(寄付)	500,000円	一般財団法人 神奈川県建築安全協会 様
	支援金(寄付)	100,000円	富士ゼロックス神奈川(株)端数倶楽部 様 富士ゼロックス神奈川株式会社様(マッチング制度)
2014年度	寄付	253,545円	一般の方からの寄付 (お名前はHP掲載)
	助成金(寄付)	200,000円	一般財団法人 神奈川県建築安全協会 様
	支援金(寄付)	200,000円	azbil みつばち倶楽部 様 アズビル株式会社 様 (マッチング制度)
2015年度	寄付	604,461円	一般の方からの寄付 (お名前はHP掲載)
	支援金(寄付)	200,000円	azbil みつばち倶楽部 様 アズビル株式会社 様 (マッチング制度)



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2017年度(H29)活動実績・2018年度(H30)活動計画≫

	支援金（寄付）	100,000 円	富士ゼロックス株式会社 端数倶楽部 様 富士ゼロックス株式会社 様（マッチング制度）
2016 年度	寄付	286,773 円	一般の方からの寄付（お名前は HP 掲載）
	支援金（寄付）	200,000 円	azbil みつばち倶楽部 様 アズビル株式会社 様（マッチング制度）
	支援金（寄付）	100,000 円	富士ゼロックス株式会社 端数倶楽部 様 富士ゼロックス株式会社 様（マッチング制度）
	賛助金	30,000 円 (30,000 円)	シティアクセス株式会社 様 (azbil みつばち倶楽部 様)
	寄付（一般）	5,000 円	初参加者向け用 目的別寄付
	寄付（一般）	51,200 円	最少定員未達時用 目的別寄付
2017 年度	寄付	305,538 円	一般の方からの寄付（お名前は HP 掲載）
	支援金（寄付）	200,000 円	azbil みつばち倶楽部 様 アズビル株式会社 様（マッチング制度） 11/29 支援金を事業へ充当（事業 1：95,000 円、 事業 6：50,000 円、事業 7：55,000 円） ※事業 1：福島 80 便、福島 81 便に充当。
	支援金（寄付）	200,000 円	富士ゼロックス株式会社 端数倶楽部 様 富士ゼロックス株式会社 様（マッチング制度） 寄付（事業 1：52,000 円、事業 6：48,000、維持 管理：100,000 円充当） ※事業 1 は福島 80 便、福島 81 便に充当。
	賛助金	(30,000 円)	(azbil みつばち倶楽部 様)
	寄付（一般）	54,500 円	初参加者向け等、バス寄付 4/22 福島 72 便に 2 口充当 26,000 円。12/9 福島 80 便に初めて 2 名へ 10,000 円充当。 2/23 福島 81 便に 3 口充当、残額は帰路感謝の集 い参加者バス分へ充当 3,000 円/1 口。
	寄付（一般）	138,500 円	浪江町社協への寄贈品寄付 2018.3.18 最終寄贈（明細は寄付者へ提示済み）



5. 組織概要

	会議体	目的
(1)	総会	総会は年1回開催。活動報告、活動計画などの運営を決議する。
(2)	定例会	定例会は都度開催。開催日は定例会で決め議事録とする。
(3)	臨時会議	臨時総会、臨時定例会は役員が必要と認めたとき、代表が招集する。

6. 会員制度

	会員項目	役割	年会費
(1)	正会員	入会時、および次年度以降は年1回、会費を納入しなければならない。正会員より総会にて役員を選出する。	2,000円/1口以上
(2)	一般会員	本会の活動を支援する会員とする。	なし
(3)	賛助会員	財政支援の個人・団体の会員とする。入会時、および次年度以降は年1回、会費を納入しなければならない。	1,000円/1口以上
(4)	情報発信	【非会員】講演会等に参加され、情報発信に許諾いただいた方。(当団体のMLに登録し情報発信)	なし
(5)	参加登録	【非会員】過去、活動または参加応募参加された方。(当団体のMLに登録し情報発信)	なし

①会員、情報発信・参加登録メンバーは当団体MLに登録する。情報発信する。

②正会員会費は2016年度に2,000円/1口以上とした。

③会員番号 kfx9999

K	kanagawa	
F	Fukushima	
X	会員	0：正会員（A：内ふくしま応援隊）、1：一般会員、2：賛助会員
	非会員	8：情報発信のメンバー、9：参加登録のメンバー
999	一連番号（001～999）	

7. 団体登録先・情報登録先

登録先	登録内容・登録日等
かながわ県民活動サポートセンター	利用団体（2012.01.27登録）
特定非営利法人 かながわ避難者と共にあゆむ会	正会員（2018.04.10更新）
NPO法人 ボランティアインフォ	ボランティア情報登録（都度）
東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN）	会員団体（2016.02.19申請）
ふくしま連携復興センター	準会員（2016.02.29承認）
CANPAN FIELDS（団体ID：1032639997） 四つ★	団体登録（2016.06.01登録）



8. 当団体運営

(1) 定例会・管理事項等

定期開催	かながわ県民センター	11F 会議室など
議事録	議事録作成・管理	電子ファイルで保管
会計監査	年度末に内部会計監査実施	
寄付・寄贈	HP ですべて掲載	ご寄付のページ
会計	HP ですべて掲載	会計報告のページ

(2) 安全対策など

ボランティア活動保険	活動参加者の加入を確認	参加申込時
行事保険	行事实施時に加入	必要都度加入
活動マニュアル	活動場所ごとに作成	電子ファイルで保管
行程表	活動・行程表を都度作成	電子ファイルで保管
仮眠所	運転手仮眠所確保	各、現地で確保

(3) 教育関係（自主受講済み事項、ボランティアの一部スキル）（役員）

環境省 水・大気環境局除染等業務に係る特別教育	渡辺孝彦、村上幸
除染等業務作業指揮者教育	村上幸
労働安全衛生法による安全衛生教育（刈払機）	渡辺孝彦、東尚子、村上幸、私市慎治
労働安全衛生法による特別教育（チェーンソー）	渡辺孝彦、村上幸
赤十字救急法 救急員	東尚子、村上幸
労働安全衛生法による特別教育修了 （小型車両系建設機械）	村上 幸(2014.05.25 追加) 私市慎治(2015.08.23 取得)
防災士（NPO 日本防災士機構）	東 尚子(2015.03.19 追加) 村上 幸(2015.12.25 追加)

（注）掲載は一部（抜粋）

(4) 保有備品（個人保有を除く）

TERRA-P	4台（購入）（活動時の計測管理）	参加者用
TERRA-N	6台（購入）（活動時の計測管理）	参加者用
メディキタス CK-6	9台（寄贈）（活動時の積算管理）	参加者用

（注）活動参加時の計測、積算を記録します。

II. 2017年度活動実績(平成29年度)

1. 福島の問題

東日本大震災から6年目が経過した。

5年目を一つの区切りとして支援も大きく変化し、そして6年目、現地の避難指示解除が進み、避難元自治体、避難先自治体、そして支援者もさらに大きく変化していく。

そして、避難指示が解除されても、必要とされることはまだある。

現地で必要とされることがある限り活動を継続する。また、その後も当団体活動として福島との関わりを継続する。

2. 活動方針

私たちはボランティアである。

- ・活動できる場所であることの判断(安全判断)
- ・活動するうえで必要とする知識(安全知識)
- ・活動するうえでの現地受入団体の長との情報交換(安全の担保)

を行い、活動を進める。現地との情報交換を行い、現地のニーズにて活動を進める。

また、現地との関わりは長く続けていく。

3. 活動目的

(1) 現地活動

直接現地に行き、現地が必要とすることのお手伝いをする。

神奈川には分からないことがたくさんある、福島に行き福島を知り、活動を続ける。

(2) 県内支援

神奈川に避難されている方々に神奈川の団体と協力しできることのお手伝いをする。

また、広域の避難者情報を把握し、福島全体の動きをつかみ、広域な避難者支援を行う。

(3) 情報発信

現地に行き福島に関わるものとして、避難区域の今を知って活動を行う。

現地の方を神奈川に招き講演会などを継続し、神奈川に福島を伝えていく。

当団体の活動も伝え、そして福島で頑張っている方の産物も紹介し福島を伝えていく。

(4) 災害復旧支援

災害ボランティア団体として、自然災害等大規模災害が発生したとき、要請に応じて災害復旧支援を行う。

(5) 維持管理

現地(民間、地元の方、行政・社協など)を訪問し、つながりを維持する。



4. 全体事業実績（概要）

福島活動の3つの柱である直接活動（福島県内での活動）、県内活動（神奈川県内での活動）、情報発信を中心とし10の事業とし、以下に活動（事業詳細）を実施した。

事業詳細	計画・実績	
事業1：現地活動 (ボラバス)	計画	【バス便】5便(4月,6月,8月,12月,2月) / 参加者(定員)18名(最少16名) / 南相馬市小高区で継続活動を行う。
	実績	◎計画どおり実施した。最終の2月便は20人の最多であった。バスは横浜のシティアクセス株、運転手はいつもの方でした。
事業2：現地活動 (広域活動)	計画	【広域便】9回(5月,7月,9月,11月+α都度5回) / 参加者2人~9人 / 広域便で現地訪問や現地ニーズ活動を行う。
	実績	◎計画どおり実施した。ただし、 <u>活動報告の遅れがあり要改善</u> 。広域便は9回実施(川内村、小高区、浪江町、葛尾村など)。
事業3：県内活動 (連携避難者支援)	計画	神奈川県を拠点として活動する他団体と連携し、主に神奈川県内に避難されている方を対象とする交流会の共催、運営協力を行う。
	実績	×不詳(次年度見直し) 当初より関わってきているが、協力依頼がなかったため参加する機会がなかった。 <u>次年度要検討</u> 。
事業4：県内活動 (広域避難者支援)	計画	3回 / 関東の避難者グループや支援団体が集まる支援者会議などへの出席を行い、広域支援を行う。
	実績	◎目的の活動が行えた。9月：南相馬市懇談会、12月：TVACバス運営セミナー、12月：大熊町応援隊報告会など協力・参加。
事業5：情報発信 (視察研修)	計画	1回 / 参加者20名 / 葛尾村・川内村の視察研修 / 参加者報告を情報発信に活用する。
	実績	◎計画どおり実施した。ただし、 <u>活動報告の遅れがあり要改善</u> 。10月に葛尾村、川内村を実施した。
事業6：情報発信 (講演会等)	計画	2回(内1回は勉強会) / 参加者40~60人 / 福島から講師を招き会員の参加を促し一般の方へのPRも行う。
	実績	◎計画どおり実施した。6月：勉強会(富岡町)、1月：講演会(東和町地区、山木屋地区)。
事業7：情報発信 (出展情報発信)	計画	1回(他有志活動の美味しいふくしま伝え隊) / イベントへの参加を通じて活動紹介や現地の特産品の紹介などを行う。
	実績	×不詳(次年度見直し)。3月の市民活動は来訪者が少ない課題があり、積極的参加は見合わせた。他団体に協力し参加とした。 <u>次年度要見直し</u> 。
事業8：情報発信 (HP情報発信)	計画	現地の観光情報や物産情報を発信し、様々な形での福島への応援を促す。
	実績	◎計画どおり実施した。あいませ福島：8回発信、ボラ・イベント情報：5回メール発信。 <u>発信の仕方の改善が必要</u> 。



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
《2017年度(H29)活動実績・2018年度(H30)活動計画》

事業9：災害復旧支援（災害緊急対応）	計画	国内で大規模な自然災害等が発生した場合に災害復旧支援ができる体制を備える。
	実績	なし
事業10：維持管理（現地訪問等）	計画	2回／現地の民間団体、個人、行政などとのつながりの維持を目的とした現地訪問を適宜実施する。
	実績	◎ <u>おおむね計画どおりに実施した</u> 。ただし、目的の理解浸透が不足で十分な訪問は行えなかった。6月：1回（11か所訪問）、8月：1回（7か所訪問）、11月：1回（10か所訪問）
その他、有志活動	計画	① 美味しいふくしま伝え隊 ② 有志便活動1（相馬野馬追） ③ 有志便活動（現地活動参加）
	実績	◎ <u>目的の活動が行えた</u> 。 ① 有志活動の美味しいふくしま伝え隊は7月に神田（全国うまいもん交流サロン）で実施。来客100名を超えてにぎわった。 ② 有志便活動で、相馬野馬追観戦に参加した。 ③ 有志便活動で、川内村ブドウ植栽参加した。

(補足文)

2017.4.1

◇2017年度事業計画

活動の3つの柱である直接活動（福島県内での活動）、県内活動（神奈川県内での活動）、情報発信を10の事業に分けて計画を立てている。

事業1：現地活動（【バス便】ボランティアバス）

ボランティアバスでの現地活動は、今年度5回の運行を計画している。

継続して南相馬市小高区での活動を計画する。

事業2：現地活動（【広域便】ボランティアバス以外の自家用車等による広域活動）

現地のニーズに応じて、自家用車や公共交通機関を利用した現地活動を行う。

南相馬市小高区の活動の一部もこの【広域便】で計画する。

事業3：県内活動（他団体との連携による避難者支援）

神奈川県を拠点として活動する他団体と連携して、主に神奈川県内に避難されている方を対象とする交流会の共催、運営協力を予定する。

事業4：県内活動（広域避難者支援に関わる交流会や会議等への出席）

事業3以外にも関東の避難者グループや支援団体が集まる支援者会議などに出席する。

事業5：情報発信（視察研修）

主に避難区域の自治体を訪問先とする現地視察研修を1回実施する。視察研修の参加者報告をまとめ報告書とし視察先へフィードバック、また情報発信に活用する。

事業6：情報発信（勉強会・講演会等）

福島から講師を招いて直接お話を聞く勉強会、講演会の機会を設ける。年2回実施する。また総会や懇親会と同日開催することで会員の参加を促す。一般の方へのPRも行う。

事業7：情報発信（イベント出展等を通じた情報発信）

市民活動フェアなど費用対効果が見込めるイベントへの参加を通じて、活動紹介や現地の特産品の紹介などを行う。

事業8：情報発信（ホームページを通じた情報発信）

現地の観光情報や物産情報を発信し、様々な形での福島応援を促す。

事業9：災害復旧支援（国内での災害発生時の緊急対応）

国内で大規模な自然災害等が発生した場合に災害復旧支援に対応できる予算計画を明文化した。実際の活動については状況に応じて決定する。

事業10：維持管理（現地訪問、打ち合わせ等）

現地の行政や民間団体・個人とのつながりの維持を目的とした現地訪問を実施する。

その他

有志活動「美味しいふくしま伝え隊」として、福島の美味しいものを伝える活動を続ける。

かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)

5. 事業詳細

(1) 事業1：現地活動（【バス便】ボランティアバス）

①現地課題

南相馬市小高区は2016年7月12日に避難指示が解除された。しかし地元での家屋内外で必要とされるニーズはまだ多くある。2017年度もお手伝いを継続する。

高齢の方、避難している中、当事者だけでは片付けはできない、福島に軸を置き、復旧・復興へできることのお手伝いを継続する。

活動参加は、ボランティアバス形式と【事業2：広域便】を併用する。

②活動目的

南相馬市小高区の復旧へ家屋内外の片付けなどお手伝い。

③活動計画

() 参加者数

上下	計画	実績	
		実施日	回数
上期	南相馬ボラバス (3便)	4/22(15),6/10(16),8/26(17)	3便(48)
下期	南相馬ボラバス (2便)	12/09(14),2/24(20)	2便(34)

④活動予算

(単位：円)

収入			支出		
項目	計画予算	実績	項目	計画予算	実績
繰越金 (会費口)	220,800	220,800	旅費交通費	368,000	305,389
新規寄付 (個人)	200	54,700	(バス代、レンタカー代,仮眠所代,高速代,他)		
新規寄付 (企業 A)	95,000	95,000	支払手数料	-	756
新規寄付 (企業 B)	52,000	52,000	雑費	-	3,336
合計	368,000	422,500	合計	368,000	309,481
			収支 (繰越)	0	113,019

(補足) 参加者の参加費 (バス代、一人 13,000 円) はバス会社に直接支払

⑤活動成果

- ・計画目的を果たせた。
- ・南相馬市社会福祉協議会の災害復旧復興ボランティアセンターは2018年2月24日をもって役割を終え、今後は地域住民の方々の生活支援に尽力される。
- ・2月24日は当団体も南相馬市活動の最終便として20名で参加させていただいた。センター長のニーズとして、翌日25日に開催される“感謝の集い”の準備をさせていただいた。感謝いたします。
- ・2012年当時の鹿島区のと時から長くお世話になった。
- ・これからも長くつながり続けさせていただきたいと願う。
- ・ボランティアは自分たちがしたいことをすることではない、必要とされることをする。



(2) 事業2：現地活動（【広域便】ボランティアバス以外の自家用車等による広域活動）

①現地課題

大人数での活動ニーズから少数での復旧・復興への様々なニーズがある。バスを使わずに小回りの利く活動体制も必要となる。2016年度より進めている【広域便（自家用車や公共交通機関を利用）】を活用し、現地の応援につなげる。

②活動目的

区域を固定せず、福島全域での活動、関わりを継続する。
 必要とされることをお手伝いする。

③活動計画

上下	計画	実績 () 参加者数	
		実施日	回数
上期	南相馬市小高区 (3回)	5/27(9),7/22(9),9/23(9)	3便(27)
下期	南相馬市小高区 (1回)	11/25(9)	1便(9)
他	スポット活動 (5回まで)	04/09(2) 川内村ブドウ植栽 09/08(5) 浪江町社協活動 10/07(5) 葛尾村稲刈支援 12/16(5) 川内村ブドウ防寒	4便(17)

④活動予算

(単位：円)

収入			支出		
項目	計画予算	実績	項目	計画予算	実績
繰越金 (会費口)	60,000	60,000	旅費交通費	60,000	65,954
新規寄付 (個人)	-	21,343	(高速代,宿泊代,ガソリン代,他)		
新規寄付 (寄贈)	-	138,500	印刷製本費	-	281
			寄贈 (浪江社協へ資機材)		138,500
			雑費	-	3,416
合計	60,000	219,843	合計	60,000	208,151
			収支 (繰越)	0	11,692

(補足1) 自家用車またはレンタカーを利用 (2~3台) し、参加者2~9名を計画する。費用 (レンタカー基本料金を除く) は参加者で実費按分する。

(補足2) ふたすけ (ふたば地域サポートセンター) との協力で、kfopメンバーに声掛けし浪江町社会福祉協議会へ資機材の寄贈を行った。

⑤活動成果

- ・当団体の現地の方々との信頼構築は十分ではない。夜行日帰りの日程で福島県外から足を運ばせていただく、交流は少ない。黙々と足を運ぶ。私たちにできること。
- ・バス便、広域便は、関係セミナーに参加し適切な運用で進めた。
- ・毎月一回の南相馬市小高区の活動に加えて、つながりの先のお手伝いにも参加させていただいた。復旧に限らず、福島の復興へ多様な関わりを継続したい。

(3) 事業3：県内活動（他団体との連携による避難者支援）

①課題

広域に避難されている方を取り巻く環境は、避難指示解除により各種制度の対象外になる、自主避難者へのみなし仮設住宅の無償供与が打ち切られるなど、生活に直結する悩みがさらに増してくる。避難されている方々の声に耳を傾け、共に進んでいくこと、また関東の自治体・社協などとの情報交換が必要とされてくる部分もある。福島と神奈川をつなぐ当団体として引き続き協力する。

②活動目的

あゆむ会からの共催・協力要請に応じてできることの事業協力を行う。
 また、当団体は福島の現地と神奈川をつなぎ手となる。

③活動計画

上下	計画	実績	
		実施日	回数
あゆむ会 事業	ふるさとコミュニティ in かながわ	協力依頼なし	0
	町別交流会	協力依頼なし	0
	各地区支援団体間交流事業	協力依頼なし	0
	支援団体交流事業	協力依頼なし	0
	全般	協力依頼なし	0
その他	南相馬市から例年の市外避難者懇談会	9/23	1回
	NPO 法人大熊町ふるさと応援隊から活動報告会	12/8	1回

④活動予算

(単位：円)

収入			支出		
項目	計画予算	実績	項目	計画予算	実績
繰越金（寄付）	10,000	10,000	諸会費	10,000	10,000
新規寄付（個人）	-	108	支払手数料	10,000	108
合計	10,000	10,108	合計	10,000	10,108
			収支（繰越）	0	0

(補足) 諸会費：あゆむ会への団体会員年会費

⑤活動成果

- ・当事者の方々が自ら運営へ少しずつ進んでいることを見守っている。必要とされるときがあれば一緒に関わらせていただく。
- ・今までのつながりで、現地から協力依頼の連絡もあり、他の関係先と調整しつつ、一番良い形で協力などさせていただいた。私たちの願う活動の一つである。
- ・今後とも福島と神奈川をつなぐ当団体として、必要なときは声を掛けていただける存在となることを願う。



(4) 事業4：県内活動（広域避難者支援に関わる交流会や会議等への出席）

①課題

自主避難者へのみなし仮設住宅の無償供与の打ち切り、平成29年度の避難指示解除の動きに伴う様々な課題が考えられるため、情報の把握は必要である。

広域支援の視野に立ち、情報の収集、避難者支援団体等の会議へ参加など、福島に関わるものとして、視野を広げ関わっていく。

②活動目的

広域な避難者情報を把握し、福島全体の動きをつかみ、広域な避難者支援を行う。

③活動計画

上下	計画	実績	
		実施日	回数
通期	3回（会議等出席する）	7/1 端数倶楽部運営委員会	3回
		12/2 TVAC バス運営セミナー	
		2/25 南相馬市社協感謝祭	

④活動予算

(単位：円)

収入			支出		
項目	計画予算	実績	項目	計画予算	実績
繰越金（会費口）	40,000	40,000	旅費交通費	120,000	0
新規寄付（個人）	80,000	80,000			
合計	120,000	120,000	合計	120,000	0
			収支（繰越）	0	120,000

※自費参加により、予算の使用はなかった。

⑤活動成果

- ・開催地は東京、現地が多い、十分な活動はできなかった。
- ・次年度は計画的に参加を図り、続けていく。

(5) 事業5：情報発信（視察研修）

①課題

現地の今を神奈川に伝えていく必要がある。

今までの活動のつながりを活かし継続して進める。

- ・東日本大震災と原発事故を『風化させない』
- ・地元の現状、今を『正しく知る・伝える』
- ・自分たちにできることを『考える』

②活動目的

現地に行き福島に関わるものとして、避難区域の今を知って活動を行う。

ただし、活動マンパワーが不足しているため年1回とする。

③活動計画

上下	計画	実績 () 参加者数	
		実施日	回数
通期	1回 (10月、葛尾村・川内村)	10/28(土) 葛尾村視察研修 10/29(日) 川内村視察研修	1回(17)

④活動予算

(単位：円)

収入			支出		
項目	計画予算	実績	項目	計画予算	実績
繰越金 (会費口)	77,000	77,000	旅費交通費	100,000	88,858
新規寄付 (個人)	53,000	62,011	(事前打ち合わせ等の費用)		
			印刷製本費	10,000	26,325
			通信費	-	2,204
			支払手数料	-	540
			雑費	20,000	7,781
合計	130,000	139,011	合計	130,000	125,708
			収支 (繰越)	0	13,303

(補足1) バス代など旅費交通費は参加者がバス会社、宿泊先に直接支払う。

(補足2) 旅費交通費、雑費は事前打ち合わせで現地訪問等に係る費用である。

(補足3) 印刷製本費は前年度の活動記録の製本代である (当年度分は次年度で行う)。

⑤活動成果

- ・活動課題、目的の一つとして“知ってもらふ”ことを伝えることはできた。
- ・ただ参加者は17名と満席に至らなかったことが残念である。
- ・目的、背景など分かりやすく伝え、参加への関心を一層広めたい。
- ・実施後の活動報告(冊子)が大きく遅れた。協力いただいた方々へタイムリーなフィードバックが行えるように運営面の改善を進める。
- ・目的、意味があり、参加者負担は大きいですが、変わらずに継続する。

(6) 事業 6 : 情報発信 (講演会等)

①課題

神奈川から多くのボランティアが福島に足を運んでいる。しかしまだまだ、神奈川県内への情報発信は十分ではない。

2015年度に初めて大規模な講演会および意見交換会を実施した。マンパワーの限界も含め直接声の届く規模での講演会は有意義であり、福島の方を招き神奈川に発信を継続する。

②活動目的

現地の方を招きミニ講演会などを継続し、神奈川に福島を伝えていく。

③活動計画

上下	計画	実績	
		実施日	回数
上期	1回 (勉強会)	6/24 富岡町の現状と展望	1回(27)
下期	1回 (講演会)	1/20 ふくしまの農と人とつながる講演会	1回(53)

④活動予算

(単位：円)

収入			支出		
項目	計画予算	実績	項目	計画予算	実績
繰越金 (会費口)	125,000	125,000	講演料	20,000	35,916
新規寄付 (個人)	27,000	37,967	租税公課	-	4,084
新規寄付 (企業 A)	50,000	50,000	旅費交通費 1	80,000	12,500
新規寄付 (企業 B)	48,000	48,000	印刷製本費	10,000	6,433
懇親会参加費	-	104,000	会場費	20,000	18,677
			旅費交通費 2	100,000	73,754
			懇親会費	-	112,000
			通信費	-	1,349
			雑費	20,000	5,400
合計	250,000	364,967	合計	250,000	270,113
			収支 (繰越)	0	94,854

(補足 1) 旅費交通費 1 は、講演会招致者との現地訪問・調整用費用

⑤活動成果

- ・勉強会、講演会を計画どおり実施した。初めての方の参加もあり有意義であった。
- ・勉強会は、過去に視察研修をさせていただいた富岡町のその後と今を振り返りも含めて実施した。再認識する良い機会であった。少し時間の不足感があり次回への課題とした。
- ・講演会は、今まで参加者が訪れたことのない地域の情報もあり、また初めて耳にする方もいて、新鮮で良かった面と、知らないことに少し残念な気持ちもあった。
- ・それらも含めて良いお話をお聞かせいただいた。継続する。

(7) 事業7：情報発信（イベント出展等を通じた情報発信）

①課題

当団体の存在は、神奈川にもまだまだ知られない存在である。福島を発信するとともに当団体の活動も知っていただき、そこから福島へとつながってほしい。そして福島で頑張っている方々の商品なども紹介し、一人でも多くの方に興味を持ち続けていただく。かながわ県民センターで開催される市民活動フェアを活用し、発信する。

また、有志活動として、復興バーに「美味しいふくしま伝え隊」として参加し、福島の美味しいものを伝えていく。（事業外、有志活動）

②活動目的

当団体の活動も伝え、そして福島で頑張っている方の商品も紹介し福島を伝えていく。

③活動計画

上下	計画	実績	
		実施日	回数
通期	1回（市民活動フェア）	(3/10-11)	0
通期	1回（参考：美味しいふくしま伝え隊）	(7/8(100超))	1

※市民活動フェアは認定NPO法人かながわ211ネットワークへ協力の形で参加した。

④活動予算

（単位：円）

収入			支出		
項目	計画予算	実績	項目	計画予算	実績
新規寄付（個人）	45,000	45,000	支払負担金	2,000	0
新規寄付（企業A）	55,000	55,000	旅費交通費	50,000	0
			印刷製本費	3,000	0
			通信運搬費	5,000	0
			雑費	40,000	0
合計	100,000	100,000	合計	100,000	0
			収支（繰越）	0	100,000

（補足1）美味しいふくしま伝え隊は有志活動であり事業予算には含めていない。

（補足2）市民活動フェアでの経費支出なし

⑤活動成果

- ・市民活動フェアは、前年状況を踏まえて今年度は直接の参加を控え、他団体への協力で参加とした。
- ・美味しいふくしま伝え隊は、有志活動であり、有志で実施した。多くの方に来場していただき、にぎわった。
- ・福島の様々な情報を今後も発信していきたい。



(8) 事業 8 : 情報発信 (ホームページを通じた情報発信)

①課題

観光情報を含めて、福島を広く広報することも必要、季節ごと、目的ごと様々な情報を定期的に発信し、一度行って見ようかな、につながる発信を継続する。

「あいばせ福島」会津の方言で、気軽に「さあ、行きませんか」という意味です。

気軽に福島へ、さあ、行ってみませんか、を続ける。

②活動目的

福島の色々なことを定期的に発信する。

③活動計画

上下	計画	実績	
		実施日	回数
通期	都度 (月に一度情報発信)	都度：あいばせ福島	8回
		都度：ボラ・イベント情報	5回

④活動予算

(単位：円)

収入			支出		
項目	計画予算	実績	項目	計画予算	実績
特になし	0	0	なし	0	0
合計	0	0	合計	0	0

⑤特になし

(9) 事業 9 : 災害復旧支援 (国内での災害発生時の緊急対応)

①課題

災害ボランティア団体として災害に備える

②活動目的

自然災害等大規模災害の復旧支援を行うことを明確にし、活動を進める。

③活動計画

上下	計画	実績	
		実施日	回数
通期	1回 実施	3/8 神奈川県災害救援ボランティア支援センター開設訓練	1回
		毎月 災ボラ支援室利用団体報告	12回

④活動予算

(単位：円)

収入			支出		
項目	計画予算	実績	項目	計画予算	実績
参加費	0	0	旅費交通費	0	0
合計	0	0	合計	0	0

⑤特になし

(10) 事業 10：維持管理（現地訪問、打ち合わせ等）

①課題

福島 of 各市町村、社協、民間団体等と連携するうえで、地元とのつながり維持は大切である定期的な訪問を行い、関係の維持に努める。

また、現地でないとは分からない情報も共有させていただき、活動に活かす。

②活動目的

現地（行政・社協・地元の団体）を訪問し、つながりを維持する。

③活動計画

上下	計画	実績	
		実施日	回数
通期	年2回（最低）	6/16-18（ふたすけ、浪江町社協、富岡町、福島市社協、葛尾村、川内村）	1回
		11/2-3（ふたすけ、富岡町、浪江町社協、小高区役所、南相馬市役所、南相馬市社協、菅野様）	1回
その他	葛尾村、川内村	8/20-21（事業5：視察研修事前調整）	1回
	浪江町社協	11/2（事業2：資機材寄贈訪問）#1	1回
	菅野様	12/3（事業6：講演会事前挨拶）	1回
	浪江町社協	3/18（事業2：資機材寄贈訪問）#3最終	1回

（補足1）その他の訪問費用は各事業と按分し計上している。

④活動予算

（単位：円）

収入			支出		
項目	計画予算	実績	項目	計画予算	実績
繰越金（会費口）	97,200	92,819	旅費交通費	180,000	25,784
新規会費	140,000	116,000	諸会費	1,200	1,200
新規寄付（個人）	154,800	58,909	通信運搬費	6,000	4,524
新規寄付（企業B）	-	100,000	印刷製本費	1,200	47,460
			消耗品費	3,000	0
			webアルバム	14,400	0
			雑費	178,400	11,208
合計	392,000	367,728	合計	392,000	90,176
			収支（繰越）	0	277,552

（補足1）印刷製本費の主たる費用はプリンターのインク代である。

⑤活動成果

- ・維持管理目的の訪問は年2回と計画どおりであったが、訪問できていない先もある、次年度は年4回を計画し、民間、行政を含めて関係を維持する。
- ・その他、勉強会・講演会、視察研修便、広域便の都度案件先などは継続して直接出向き考えを伝え、理解を得て、信頼関係を構築して協力をお願いしていく。



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2017年度(H29)活動実績・2018年度(H30)活動計画≫

(11) 事業合計

①活動計算書

科目	金額					
	計画 金額(小計)	実績 金額(小計)	計画 金額(中計)	実績 金額(中計)	計画 金額(合計)	実績 金額(合計)
かながわ「福島応援」プロジェクト(kfop) 2017年4月1日 ~ 2018年3月31日まで (単位:円)						
I 経常収益						
1. 受取会費						
受取会費	140,000	116,000	140,000	116,000		
2. 受取寄付金						
受取寄付金(一般)	364,386	296,527				
受取寄付金(目的)	300,000	602,011	664,386	898,538		
3. 受取助成金等						
受取民間助成金1		0				
受取民間助成金2		0	0	0		
4. 事業収益						
事業1収益		0				
事業2収益		0				
事業3収益		0				
事業4収益		0				
事業5収益		0				
事業6収益		104,000				
事業7収益		0				
事業8収益		0				
事業9収益		0				
維持収益		0	0	104,000		
5. その他収益						
受取利息		5	0	5		
経常収益計					804,386	1,118,543
II 経常費用						
1. 事業費						
(1)人件費	0	0				
人件費計	0	0				
(2)その他経費						
事業支払負担金	2,000	0				
事業謝礼金	20,000	35,916				
事業源泉徴収額	0	4,084				
事業印刷製本費	23,000	33,039				
事業会議費	20,000	18,677				
事業旅費交通費	878,000	546,455				
事業通信運搬費	5,000	2,713				
事業消耗品費	0	0				
事業保険料	0	0				
事業支払手数料	0	1,404				
事業支払寄付金	0	138,500				
事業謝会費	10,000	122,000				
事業雑費	80,000	19,933				
その他経費計	1,038,000	922,721				
事業費計			1,038,000	922,721		
2. 管理費						
(1)人件費						
人件費計	0	0				
(2)その他経費						
管理支払負担金	0	0				
管理印刷製本費	5,000	47,460				
管理会議費	0	0				
管理旅費交通費	180,000	25,784				
管理通信運搬費	10,000	4,932				
管理消耗品費	3,000	0				
管理保険料	0	0				
管理支払手数料	0	432				
管理支払寄付金	0	0				
管理謝会費	1,200	1,200				
管理雑費	192,800	11,208				
その他経費計	392,000	91,016				
管理費計			392,000	91,016		
経常費用計					1,430,000	1,013,737
当期正味財産増減額					-625,614	104,806
前期繰越正味財産額					625,614	625,614
次期繰越正味財産額					0	730,420

(2018年3月31日 現在)

②貸借対照表

貸借対照表			
		かながわ「福島応援」プロジェクト(kfop)	
2017年4月1日 ~ 2018年3月31日まで		(単位:円)	
科目	金額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
横浜BK会費口	730,420		
横浜BK寄付口	0		
仮払金	0		
流動資産合計		730,420	
2. 固定資産			
固定資産	0		
固定資産合計		0	
資産合計			730,420
II 負債の部			
1. 流動負債			
仮受金	0		
前受金	0		
未払金	0		
流動負債合計		0	
2. 固定負債			
役員借入金	0		
固定負債合計		0	
負債合計			0
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		625,614	
当期正味財産増減額		104,806	
正味財産合計			730,420
負債及び正味財産合計			730,420

(2018年3月31日 現在)



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2017年度(H29)活動実績・2018年度(H30)活動計画≫

③財務諸表の注記

財務諸表の注記



かながわ「福島応援」プロジェクト(kfop)

(会計期間 : 2017年4月1日 ~ 2018年3月31日まで)

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準によっています。
 資産は、口座預金(会費口、寄付口)のみ、固定資産なし。借入等の負債なし(前受、仮受を除く)

2. 事業別損益の状況

事業別損益の状況は以下の通りです。

(単位:円)

科目	事業1 ボラバス	事業2 現地広域	事業3 あゆむ会	事業4 県内広域	事業5 視察研修	事業6 講演会	事業7 市民活動	事業8 あいまぜ	事業9 災害対応	事業 部門計	維持管理	合計
I 経常収益												
1. 受取会費(新規)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	116,000	116,000
【事業計画】	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	140,000	140,000
※ 2. 受取寄付金(新規)	200	21,343	108	80,000	53,000	37,967	45,000	0	0	237,618	58,909	296,527
【事業計画】	200	0	0	80,000	53,000	27,000	45,000	0	0	205,200	159,186	364,386
※ 3. 受取助成金等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
【事業計画】	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
※ 4. 受取目的寄付等	201,500	138,500	0	0	9,011	98,000	55,000	0	0	502,011	100,000	602,011
【事業計画】	147,000	0	0	0	0	98,000	55,000	0	0	300,000	0	300,000
5. 事業収益(参加費)	0	0	0	0	0	104,000	0	0	0	104,000	0	104,000
【事業計画】	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
※ 6. 前期繰越金(寄付)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7. 前期繰越金(目的)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 前期繰越金(会費)	220,800	60,000	10,000	40,000	77,000	125,000	0	0	0	532,800	92,814	625,614
9. その他収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5
経常収益計	422,500	219,843	10,108	120,000	139,011	364,967	100,000	0	0	1,376,429	367,728	1,744,157
【事業計画計】	388,000	60,000	10,000	120,000	130,000	250,000	100,000	0	0	1,038,000	392,000	1,430,000
II 経常費用												
(1) 人件費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
人件費計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) その他経費												
諸謝金	0	0	0	0	0	35,916	0	0	0	35,916	0	35,916
源泉徴収額	0	0	0	0	0	4,084	0	0	0	4,084	0	4,084
印刷製本費	0	281	0	0	26,325	6,433	0	0	0	33,039	47,460	80,499
会議費	0	0	0	0	0	18,677	0	0	0	18,677	0	18,677
旅費交通費	305,389	65,954	0	0	88,858	86,254	0	0	0	546,455	25,784	572,239
車両費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
通信運搬費	0	0	0	0	2,204	1,349	0	0	0	3,553	4,524	8,077
消耗品費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
保険料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
支払手数料	756	0	108	0	540	0	0	0	0	1,404	0	1,404
支払寄付金	0	138,500	0	0	0	0	0	0	0	138,500	0	138,500
諸会費	0	0	10,000	0	0	112,000	0	0	0	122,000	1,200	123,200
支払負担金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雑費	3,336	3,416	0	0	7,781	5,400	0	0	0	19,933	11,208	31,141
その他経費計	309,481	208,151	10,108	0	125,708	270,113	0	0	0	923,561	90,176	1,013,737
経常費用計	309,481	208,151	10,108	0	125,708	270,113	0	0	0	923,561	90,176	1,013,737
当期経常増減額	113,019	11,692	0	120,000	13,303	94,854	100,000	0	0	452,868	277,552	730,420

(※表示項目の金額は寄付口から会費口(事業用口座)へ振替額または予定額を示す。)

3. 使途等が制限された寄付等の内訳

内容	期首残高	当期 増加額	当期 減少額	期末残高	備考
バス目的寄付	0	54,500	54,500	0	4/22福島72便に2口充当26,000円。12/9福島80便に初めて2名へ10,000円充当。 2/23福島81便に3口充当、残額は帰路感謝の集い参加者バス分へ充当3,000円/一口。
浪江町社協寄贈寄付	0	138,500	138,500	0	12/25寄贈品購入代金振り込み
azbil みつばら倶楽部	0	200,000	200,000	0	11/29支援金を事業へ充当(事業1:95,000円、事業6:50,000円、事業7:55,000円) ※事業1:福島80便、福島81便に充当。
端数倶楽部	0	200,000	200,000	0	寄付(事業1:52,000円、事業6:48,000円、維持管理:100,000円充当) ※事業1は福島80便、福島81便に充当。
	0	0	0	0	
	0	0	0	0	
合計	0	593,000	593,000	0	

(2018年3月31日 現在)

④監査報告書 (会計、事業)

監 査 報 告 書

かながわ福島応援プロジェクト(以下、「kfop」という。)の2017年度(平成29年4月1日～平成30年3月31日)の収支会計及び事業について監査したので報告する。

1. 監査方法の概要

kfop代表から受領した2017年度(平成29年度)の会計の収支元帳、財務諸表、預金通帳、領収書等証拠書類を閲覧して監査するとともに、2017年度の事業について活動実績報告書の閲覧や実施内容の確認など、通常とるべき必要な方法を用いて監査した。

2. 監査結果

1) 監事会計監査

会計収支元帳、預金通帳、領収書等証拠書類、財務諸表、損益計算書は、すべて相違なく、適正に表示されている。

kfopは任意団体であるが、財務諸表はNPO法人会計基準に従って作成し、事業ごとの会計は適正に区分経理されていて、実施内容と収支会計を正確に把握できる。

2) 監事事業監査

活動は設立趣意書および活動基本に従い、平成29年度活動計画のとおり適正に実施している。

事業実施のために福島県内各市町村および現地社会福祉協議会などへの定期的訪問と調査を行い、協議と意思疎通を継続して現地活動実施を組織化している。

また、現地活動の結果については活動後速やかにホームページで開示しており、活動の透明性確保と一般への広報の取組みを適切に行っている。

3) 追記事項、改善点の提言

現地活動以外の事業で、計画していて未実施の事業については、kfop内外の状況や人的資源などを十分に検討し、適切に整理・統合などするべきである。

平成30年5月7日

監事 矢島 國紀 



6. 2017年度の役員・スタッフ

(1) 役員・スタッフ

区分	役割	氏名	兼務等	
役員	代表	渡辺 孝彦	重任	兼 会計、渉外、あゆむ会副理事長
	広報	東 尚子	重任	
		村上 幸	重任	
		私市 慎治	重任	
		長崎 羊子	重任	
監事		矢島 國記	新任	監事（業務監査、会計監査）、記録

(2) 事業担当

事業	事業名	担当名
事業1	ボラバス担当	渡辺孝彦、長崎羊子
事業2	現地広域担当	渡辺孝彦、東 尚子
事業3	あゆむ会担当	渡辺孝彦
事業4	県内広域担当	東 尚子、渡辺孝彦
事業5	視察研修担当	渡辺孝彦、東 尚子
事業6	講演会等担当	東 尚子、渡辺孝彦
事業7	市民活動担当	渡辺孝彦、東 尚子
事業8	あいばせ福島担当	私市慎治
事業9	災害復旧支援担当	私市慎治、村上 幸
事業10	維持管理	渡辺孝彦、東 尚子
(関連事業)	美味しいふくしま伝え隊	村上 幸、東 尚子

(3) 2018年度3月31日会員状況

(単位：人)

区分		総人数	女性数	男性数
正会員	0/A	58名(+6)	22名(+1)	36名(±5)
一般会員	1	129名(▲2)	49名(±0)	80名(▲2)
賛助会員	2	7名(±0)	4名(±0)	3名(±0)
情報発信	8	9名(+9)	5名(+5)	4名(+4)
参加登録	9	114名(+8)	48名(+5)	66名(+3)
合計		317名 (+21)	128名 (+11)	189名 (+10)

(補足) () 内は前年2017年3月31日対比

7. 平成 29 年度（2017 年度）総括

(1) 現地活動

事業 1、2 で活動先として 2012 年より南相馬市小高区で毎月一回続けてきた。

2017 年 2 月 24 日に同、南相馬市社会福祉協議会災害復旧復興ボランティアセンターは役目を終えた。当団体も目的の一つを果たせた。

2018 年度は、事業 1、2 を統合して新たに事業 1 として活動を続ける。活動先は浪江町社会福祉協議会の町中ボランティアである。必要とされることがある限り続ける。

また、災害復旧に限らず、福島復興に必要とする地域のボランティアがあれば参加する。福島に長く関わっていく。

(2) 県内支援

事業 2、3 で関東に避難を余儀なくされた方々のお手伝い。また神奈川と現地のつなぎ手となるよう、現地に赴く団体の足を活用させていただきよう進めている。

交流会などは、当事者の方々が自ら運営に少しずつ進められている。私たちはそれを見守っていきたい。また、今後ますます、それぞれの地域（戻られた方、新しいところに住まわれた方、まだまだ先が見えない方々など）での支えが必要となる。見守っていく。

2018 年度は事業 2、3 を統合し、事業 2 として、連携活動として、当事者の方々のつなぎ手として今後も動く。

(3) 情報発信

事業 5、6、7、8 で視察研修、講演会、市民活動フェアなど情報の発信を行ってきた。

多くの方、または初めての方も参加していただくことができ、少しではあるが神奈川に届く発信ができた。

2018 年度は事業 5,6 を単独事業として残し、事業 6~8 は一本に統合して、効率的にかつ有効な情報発信を進める。

まだまだ福島について知られていないことは多く、計画の中で諸々発信し、伝えていく。

(4) 災害支援

2017 年度も大きな地震が 4 件あった。当団体として直接の活動はなかったが、必要とされるときに動ける体制を維持したい。

2017 年度の主な地震は以下である・

- ・ 2017 年 6 月 21 日：大分県豊後水道を震源とする地震（震度 5 強）
- ・ 2017 年 6 月 26 日：長野県南部を震源とする地震（震度 5 強）
- ・ 2017 年 7 月 11 日：鹿児島県鹿児島湾を震源とする地震（震度 5 強）
- ・ 2017 年 9 月 9 日：秋田県内陸南部を震源とする地震（震度 5 強）

福島の元気に！福島の笑顔に！そして、羽ばたく明日へ。

2018 年 3 月 31 日

かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)

代表 渡辺孝彦／スタッフ一同

III. 2018年度活動計画(平成30年度)

1. 福島の問題

東日本大震災から丸7年目が経過した。

現地の避難指示解除が進み、避難元自治体、避難先自治体、そして当事者の方々の環境も大きく変化してく。避難指示が解除されても、必要とされることはまだある。

現地で必要とされることがある限り、活動を継続する必要がある。東日本大震災を伝え続けることは大事である。

当団体は福島に長く関わり続ける。

2. 活動方針

私たちはボランティアである。

- ・活動できる場所であることの判断 (安全判断)
- ・活動するうえで必要とする知識 (安全知識)
- ・活動するうえでの現地受入団体の長との情報交換 (安全の担保)

を行い、活動を進める。現地との情報交換も行い、現地のニーズにて活動を進める。

また、現地との関わりは長く続ける。

3. 活動目的

(1) 現地活動

現地が必要とする復旧復興のニーズに応え、一緒に汗をかく、つながる。

- ①浪江町内のボランティア活動等に参加し復旧復興へ一緒に汗をかく。
- ②現地開催の交流事業に参加して一緒に楽しみ、心のつながりを育む。

(2) 連携活動

関東圏および現地の団体と連携し、被災・避難当事者のためのつなぎ手となる。

- ①神奈川県と現地団体、行政とのつなぎ手として連携する。
- ②関東圏や現地と連携して被災・避難当事者を支援する活動、交流会・支援会議等に参加する。

(3) 視察研修

福島県内の地域を訪問し視察研修を行い、福島の当時・今・これからを伝えていく。

- ②現地との信頼関係を醸成したうえで計画、遂行する。
- ③視察研修の参加者報告をまとめて報告書とし、情報発信に活用する (伝える)。

(4) 情報発信

講演会や勉強会、イベントへの出展等を通じて福島の実況・生の声を神奈川に伝える。

- ①福島から講師を招いて講演会や勉強会を企画し、直接お話を聞く機会を設ける。
- ②勉強会は総会や懇親会と同日開催することで会員の参加を促し理解を深める。
- ③広く現地の観光情報や物産情報を発信し、様々な形での福島応援を促す。
- ④イベント等も活用し広く活動発信を行う。

(5) 災害復旧支援

国内で大規模な自然災害等が発生した場合に災害復旧支援に緊急対応する。
実際の活動については状況に応じて決定する。

(6) 維持管理

現地の民間団体・個人、行政とのつながりの維持を目的として現地訪問を行う。

4. 全体事業計画（概要）

福島活動の3つの柱である直接活動（福島県内での活動）、県内活動（神奈川県内での活動）、情報発信を中心とし10の事業とし、以下に活動（事業詳細）を行う。

事業詳細	計画	
事業1 (現地活動)	計 画	浪江町社協ボランティアに毎月1回参加する 【広域便】10回、参加枠各8名、延べ80人、福島86便～ 【バス便】2回、参加枠各17名、延べ34人、福島88,90便 【広域便】現地開催の交流事業・ボランティアに参加。4回まで
事業2 (連携活動)	計 画	関東圏および現地団体と連携し、当事者のつなぎ手となるために、年4回まで、現地開催の支援活動、交流会、支援会議等に参加する。
事業3 (視察研修)	計 画	福島県内の地域を訪問し視察研修を行い、福島の当時・今・これからを伝えていく。 【視察研修便】1回、参加者20人、福島93便（視察研修6号）
事業4 (情報発信)	計 画	講演会や勉強会、イベントへの出展等を通じて福島の生の声を神奈川に伝える。 【勉強会】1回、50人、第6回勉強会 【講演会】1回、50人、第7回講演会
事業5 (災害復旧支援)	計 画	国内で大規模な自然災害等が発生した場合に災害復旧支援ができる体制を備える。
維持管理 (現地訪問等)	計 画	現地の民間団体、個人、行政などとのつながりの維持を目的とした現地訪問を適宜実施する。年4回（上期2回、下期2回）



(公開・掲示用)

2018.4.1

◇2018年度事業基本計画

活動の3つの柱である現地活動（福島県内での活動）、県内活動（神奈川県内を含む関東圏での活動）、情報発信（広く一般の方に）を基本として事業を計画する。

事業1：現地活動

現地が必要とする復旧復興のニーズに応え、一緒に汗をかく、つながる。

- ①浪江町内のボランティア活動等に参加し復旧復興へ一緒に汗をかく。
- ②現地開催の交流事業に参加して一緒に楽しみ、心のつながりを育む。

事業2：連携活動

関東圏および現地の団体と連携し、被災・避難当事者のためのつなぎ手となる。

- ①神奈川県と現地団体、行政とのつなぎ手として連携する。
- ②関東圏や現地と連携して被災・避難当事者を支援する活動、交流会・支援会議等に参加する。

事業3：視察研修

福島県内の地域を訪問し視察研修を行い、福島の当時・今・これからを伝えていく。

- ①現地との信頼関係を醸成したうえで計画、遂行する。
- ②視察研修の参加者報告をまとめて報告書とし、情報発信に活用する（伝える）。

事業4：情報発信

講演会や勉強会、イベントへの出展等を通じて福島の現状・生の声を神奈川に伝える。福島から講師を招いて講演会や勉強会を企画し、直接お話を聞く機会を設ける。

- ①勉強会は総会や懇親会と同日開催することで会員の参加を促し理解を深める。
- ②広く現地の観光情報や物産情報を発信し、様々な形での福島応援を促す。
- ③イベント等も活用し広く活動発信を行う。

事業5：災害復旧支援

国内で大規模な自然災害等が発生した場合に災害復旧支援に緊急対応する。実際の活動については状況に応じて決定する。

維持管理

現地の民間団体、個人、行政とのつながりの維持を目的として現地訪問を行う。

その他

有志活動である「美味しいふくしま伝え隊」等で、福島の特産品を実際に味わってもらう活動等を続ける。

かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)



5. 事業詳細

(1) 事業1：現地活動

①現地課題

福島県双葉郡浪江町は2018年3月31日に「帰還困難区域」を除く区域が解除された。そのうえで、地元で必要とされるニーズがあり、浪江町社協が「町中ボランティア」の活動を開始して。過去、引っ越しボランティアの団体登録もさせていただいていたが、新たに「町中ボランティア」にも団体登録をさせていただき、必要とされることのお手伝いをさせていただく。関心が薄れていく中、神奈川にも発信に今を伝えていく。

②活動目的

浪江町復旧復興のお手伝いを毎月一回、継続する。
 また、地域とのつながりも醸成する。

③活動計画

上下	計画	実績	
		実施日	回数
上期	広域便4回、バス便2回		
下期	広域便6回、バス便0回		
他	現地活動へ都度参加（広域便4回）		

④活動予算

(単位：円)

収入			支出		
項目	計画予算	実績	項目	計画予算	実績
繰越金（会費口）	323,932		旅費交通費1	373,932	
新規会費	0		(バス代,仮眠所代,レンタカー代,他)		
新規寄付A（個人）	30,000		旅費交通費2	120,000	
新規寄付B（企業）	100,000		(レンタカー代,他)		
新規寄付C（企業）	40,000		-	-	
合計	493,932		合計	493,932	
			収支（繰越）	0	

(補足1) 広域便のレンタカー代はkfop支払い、他確定額の実費金額は参加者で按分。

(補足2) バス代金は参加者がバス会社へ直接支払う。



(2) 事業2：連携活動

①課題

避難指示解除により環境は大きく変化していく。

生活に直結する悩みがさらに増してくる。避難されている方々の声に耳を傾け、共に進んでいくこと、また関東の自治体・社協などとの情報交換が必要とされてくる部分もある。福島と神奈川をつなぐ当団体として引き続き協力する。

②活動目的

当団体は福島の現地と神奈川をつなぎ手となる。

また、神奈川、東京、現地での交流会、会議などに参加し継続して情報を得る。

あゆむ会からの共催・協力要請に応じてできることの事業協力を行う。

そして、福島の現地に赴く団体として、神奈川と福島のつなぎ手となる。

③活動計画

上下	計画	実績	
		実施日	回数
上期	会議等参加 (2回)		
下期	会議等参加 (2回)		

※2018.1.27：2018年度、あゆむ会様との事業連携ご提案済み

④活動予算

(単位：円)

収入			支出		
項目	計画予算	実績	項目	計画予算	実績
繰越金 (会費口)	100,108		あゆむ会費	10,000	
新規会費	10,000		支払手数料	108	
新規寄付 A (個人)	100,000		旅費交通費	200,000	
新規寄付 B (企業)	0		(会議参加の旅費交通費、宿泊代等)		
新規寄付 C (企業)	0				
合計	210,108		合計	210,108	
			収支 (繰越)	0	



(3) 事業3：視察研修

①課題

現地に行き、自分の目、耳、体で感じ、現地の今を神奈川に伝えていく必要がある。
 今までの活動のつながりを活かし継続して進める。

- ・東日本大震災と原発事故を『伝える』
- ・地元の現状、今を『正しく知る・伝える』
- ・自分たちにできることを『考える』

②活動目的

現地に行き福島に関わるものとして、避難区域の今を知って活動を行う。
 年1回実施する。

③活動計画

上下	計画	実績	
		実施日	回数
通期	福島 93 便 (視察研修 6 号) 11 月計画		

④活動予算

(単位：円)

収入			支出		
項目	計画予算	実績	項目	計画予算	実績
繰越金 (会費口)	80,000		旅費交通費	100,000	
新規会費	0		(視察事前調整の旅費交通費等)		
新規寄付 A (個人)	30,000		印刷製本費	10,000	
新規寄付 B (企業)	10,000		雑費	20,000	
新規寄付 C (企業)	10,000				
合計	130,000		合計	130,000	
			収支 (繰越)	0	

(補足 1) 視察研修便は全額参加者負担。バス代、宿泊代等は参加者が直接支払う。

(補足 2) 予算は視察研修の調整費用、活動報告書の印刷代等の費用等。



(4) 事業4：情報発信（講演会等）

①課題

神奈川県内への情報発信は「伝える」ために必要である。

年に2度（上期：勉強会、下期：講演会）を通して、福島の方を招き、神奈川への発信を継続する必要がある。

②活動目的

現地の方を招き講演会などを継続し、神奈川に福島を伝えていく。

③活動計画

上下	計画	実績	
		実施日	回数
上期	1回（第6回勉強会）		
下期	1回（第7回講演会）		

④活動予算

（単位：円）

収入			支出		
項目	計画予算	実績	項目	計画予算	実績
繰越金（会費口）	96,063		謝金（講演料）	90,000	
新規会費	0		租税公課	3,063	
新規寄付 A（個人）	153,000		旅費交通費 A	90,000	
新規寄付 B（企業）	30,000		印刷製本費	6,000	
新規寄付 C（企業）	30,000		会場費	20,000	
参加費（懇親会）	240,000		旅費交通費 B	100,000	
			雑費	240,000	
合計	549,063		合計	549,063	
			収支（繰越）	0	

（補足1）旅費交通費 A は講師招致費

（補足2）旅費交通費 B は調整打ち合わせ等費用



(5) 事業 5 : 災害復旧支援

①課題

災害ボランティア団体として災害に備える
 運営マニュアルなども整え、誰でも初動ができる運営とする必要がある。

②活動目的

自然災害等大規模災害の復旧支援を行うことを明確にし、活動を進める。
 また、運営マニュアルの整備も進める。

③活動計画

上下	計画	実績	
		実施日	回数
通期	計画なし		

④活動予算

(単位：円)

収入			支出		
項目	計画予算	実績	項目	計画予算	実績
参加費	0		旅費交通費	0	
合計	0		合計	0	
			収支(繰越)	0	

(6) 維持管理

①課題

福島の各市町村、社協、民間団体等と連携するうえで、地元とのつながり維持は大切である定期的な訪問を行い、関係の維持に努める。(前年度に同じ)。

前年度は、回数が少なく必要な関係先へ訪問が十分ではなかった、今年度は上期、下期に各 2 回を計画し、維持管理に努める。

②活動目的

現地（行政・社協・地元の団体）を訪問し、つながりを維持する。

③活動計画

上下	計画	実績	
		実施日	回数
上期	2回訪問		
下期	2回訪問		

④活動予算

(単位：円)

収入			支出		
項目	計画予算	実績	項目	計画予算	実績
繰越金（会費口）	130,317		旅費交通費	200,000	
新規会費	110,000		諸会費	1,200	
新規寄付 A（個人）	87,000		通信運搬費	10,000	
新規寄付 B（企業）	60,000		印刷製本費	10,000	
新規寄付 C（企業）	20,000		消耗品費	20,000	
			webアルバム	0	
			雑費	166,117	
合計	407,317		合計	407,317	
			収支（繰越）	0	



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2017年度(H29)活動実績・2018年度(H30)活動計画≫

(7) 事業合計

①活動計算書

科目	金額					
	計画 金額(小計)	実績 金額(小計)	計画 金額(中計)	実績 金額(中計)	計画 金額(合計)	実績 金額(合計)
I 経常収益						
1. 受取会費						
受取会費	120,000	0	120,000	0		
2. 受取寄付金						
受取寄付金(一般)	400,000	0				
受取寄付金(目的)	0	0	400,000	0		
3. 受取支援金等(寄付)						
受取民間支援金1	200,000	0				
受取民間支援金2	100,000	0	300,000	0		
4. 事業収益						
事業1収益		0				
事業2収益		0				
事業3収益		0				
事業4収益	240,000	0				
事業5収益		0				
(未使用)		0				
(未使用)		0				
(未使用)		0				
(未使用)		0				
維持収益		0	240,000	0		
5. その他収益						
受取利息		0	0	0		
経常収益計					1,060,000	0
II 経常費用						
1. 事業費						
(1)人件費	0	0				
人件費計	0	0				
(2)その他経費						
事業支払負担金	0	0				
事業諸謝金	90,000	0				
事業源泉徴収額	3,063	0				
事業印刷製本費	16,000	0				
事業会議費	20,000	0				
事業旅費交通費	983,500	0				
事業通信運搬費	0	0				
事業消耗品費	0	0				
事業保険料	0	0				
事業支払手数料	540	0				
事業支払寄付金	0	0				
事業諸会費	10,000	0				
事業雑費	260,000	0				
その他経費計	1,383,103	0				
事業費計			1,383,103	0		
2. 管理費						
(1)人件費	0	0				
人件費計	0	0				
(2)その他経費						
管理支払負担金	0	0				
管理印刷製本費	10,000	0				
管理会議費	0	0				
管理旅費交通費	200,000	0				
管理通信運搬費	10,000	0				
管理消耗品費	20,000	0				
管理保険料	0	0				
管理支払手数料	0	0				
管理支払寄付金	0	0				
管理諸会費	1,200	0				
管理雑費	166,117	0				
その他経費計	407,317	0				
管理費計			407,317	0		
経常費用計					1,790,420	0
当期正味財産増減額					-730,420	0
前期繰越正味財産額					730,420	730,420
次期繰越正味財産額					0	730,420

(2018年4月1日 現在)



②貸借対照表

貸借対照表



かながわ「福島応援」プロジェクト(kfop)

2018年4月1日 ~ 2019年3月31日まで

(単位:円)

科目	金額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
横浜BK会費口	730,420		
横浜BK寄付口	0		
仮払金	0		
流動資産合計		730,420	
2. 固定資産			
固定資産	0		
固定資産合計		0	
資産合計			730,420
II 負債の部			
1. 流動負債			
仮受金	0		
前受金	0		
未払金	0		
流動負債合計		0	
2. 固定負債			
役員借入金	0		
固定負債合計		0	
負債合計			0
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		730,420	
当期正味財産増減額		0	
正味財産合計			730,420
負債及び正味財産合計			730,420

(2018年4月1日 現在)



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2017年度(H29)活動実績・2018年度(H30)活動計画≫

③財務諸表の注記

財務諸表の注記



かながわ「福島応援」プロジェクト(kfop)

(会計期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで)

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準によっています。
 資産は、口座預金(会費口、寄付口)のみ、固定資産なし。借入等の負債なし(前受、仮受を除く)

2. 事業別損益の状況

事業別損益の状況は以下の通りです。

(単位：円)

科目	事業1 現地活動	事業2 連携活動	事業3 視察研修	事業4 情報発信	事業5 災害支援	事業 部門計	維持管理	合計
I 経常収益								
1. 受取会費(新規)	0	0	0	0	0	0	0	0
【事業計画】	0	10,000	0	0	0	10,000	110,000	120,000
※2. 受取寄付金(新規)	0	0	0	0	0	0	0	0
【事業計画】	30,000	100,000	30,000	153,000	0	313,000	87,000	400,000
※3. 受取支援金等	0	0	0	0	0	0	0	0
【事業計画】	140,000	0	20,000	60,000	0	220,000	80,000	300,000
※4. 受取目的寄付等	0	0	0	0	0	0	0	0
【事業計画】	0	0	0	0	0	0	0	0
5. 事業収益(参加費)	0	0	0	0	0	0	0	0
【事業計画】	0	0	0	240,000	0	240,000	0	240,000
※6. 前期繰越金(寄付)	323,932	100,108	80,000	96,063	0	600,103	130,317	730,420
7. 前期繰越金(目的)	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 前期繰越金(会費)	0	0	0	0	0	0	0	0
9. その他収益	0	0	0	0	0	0	0	0
経常収益計	323,932	100,108	80,000	96,063	0	600,103	130,317	730,420
【事業計画計】	493,932	210,108	130,000	549,063	0	1,383,103	407,317	1,790,420
II 経常費用								
(1)人件費	0	0	0	0	0	0	0	0
人件費計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2)その他経費								
諸謝金	0	0	0	0	0	0	0	0
源泉徴収額	0	0	0	0	0	0	0	0
印刷製本費	0	0	0	0	0	0	0	0
会議費	0	0	0	0	0	0	0	0
旅費交通費	0	0	0	0	0	0	0	0
車両費	0	0	0	0	0	0	0	0
通信運搬費	0	0	0	0	0	0	0	0
消耗品費	0	0	0	0	0	0	0	0
保険料	0	0	0	0	0	0	0	0
支払手数料	0	0	0	0	0	0	0	0
支払寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0
諸会費	0	0	0	0	0	0	0	0
支払負担金	0	0	0	0	0	0	0	0
雑費	0	0	0	0	0	0	0	0
その他経費計	0	0	0	0	0	0	0	0
経常費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	323,932	100,108	80,000	96,063	0	600,103	130,317	730,420

(※表示項目の金額は寄付口から会費口(事業用口座)へ振替額または予定額を示す。)

3. 「使途制限なし」寄付・支援金の内訳

内容	期首残高	当期 増加額	当期 減少額	期末残高	備考
	0	0	0	0	
	0	0	0	0	
	0	0	0	0	
	0	0	0	0	
	0	0	0	0	
	0	0	0	0	
合計	0	0	0	0	

2018年4月1日 現在)



6. 2018年度の役員・スタッフ

(1) 役員・スタッフ

区分	役割	氏名	兼務等	
役員	代表	渡辺 孝彦	重任	兼 会計、渉外、あゆむ会副理事長
	広報	東 尚子	重任	
		村上 幸	重任	
		私市 慎治	重任	
		長崎 羊子	重任	
監事		矢島 國紀	重任	監事 (業務監査、会計監査)、記録

(2) 事業担当

事業	事業名	担当名
事業 1	【現地活動】担当	私市慎治、長崎羊子 / (全体運営：渡辺)
事業 2	【連携活動】担当	東 尚子、渡辺孝彦
事業 3	【視察研修】担当	渡辺孝彦、東 尚子
事業 4	【情報発信】担当	村上 幸、東 尚子
事業 5	災害復旧支援担当	渡辺孝彦
維持管理	維持管理	渡辺孝彦、東 尚子
(関連事業)	美味しいふくしま伝え隊	村上 幸、東 尚子

(3) 2018年度4月会員状況 (2018.5.1.時点)

(単位：人)

区分		総人数	女性数	男性数
正会員	0/A	48名(▲4)	17名(▲4)	31名(±0)
一般会員	1	136名(+5)	53名(+4)	83名(+1)
賛助会員	2	8名(+1)	5名(+1)	3名(±0)
情報発信	8	9名(+9)	6名(+6)	3名(+3)
参加登録	9	115名(+9)	49名(+6)	66名(+3)
合計		316名(+20)	130名(+13)	185名(+7)

(補足) () 内は前年2017年3月31日対比



7. 最後に

当団体は、2018年度も黙々と活動を進める。

信頼関係を持ち長期的に関わることを前提とし、福島の方々とのつながりを広げ、維持する。

福島環境は常に変わっていく、支援、応援から一緒にいるのが現在である。
当団体の名称は「福島応援」としている。変化は私たちも体感しています。

応援は“一緒に”です。
受け入れていただくことは簡単ではありませんが、福島へ足を運び続けたい。

福島には元気、笑顔がすでに私たち以上にあります。
私たちはその元気、笑顔をいただいて、神奈川から福島に足を運び続けたいと思います。

福島の現地に
そして、神奈川県内に避難を余儀なくされている皆様の必要とされることへ、少しでもお手伝いさせていただければと思います。

福島の元気に！
福島の笑顔に！
福島の明日に！

私たちは、無理をしているものでもなく。

福島に行きたいから行く。
元気に、明るく、楽しく参加者と活動が続けていきます。
福島の応援（一緒に）を続けます。

2018年度もよろしくお祈りします。

2018年4月1日
かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
代表 渡辺孝彦／スタッフ一同

IV. 補足資料

1. 活動の様子

詳細はHPをご参照ください。【 <http://kfop.jimdo.com/活動様子/> 】
 一部写真を掲載



20170408 川内村ブドウ植栽



20170708-復興バー@銀座



20170722 福島 75 便(南相馬 44 号)



20170826 福島 76 便(南相馬 45 号)



20171007 福島 83 便(葛尾村 01 号)



20171014 福島 78 便(視察研修 5 号)



20171014 福島 78 便(視研修 5 号)



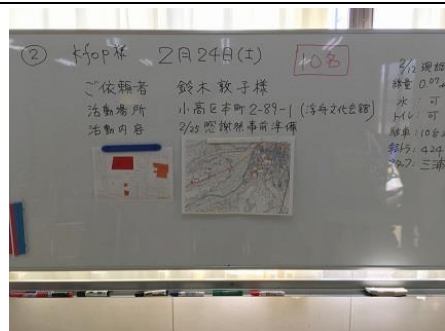
20171015 福島 78 便(視察研修 5 号)



20171216-17 川内村ワイン



20180120 講演会



20180224 福島 81 便(南相馬 49 号)



20180225 福島 81 便(南相馬 49 号)



保護ページ